2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月10日

上場会社名　　宝ホールディングス株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　2531　　ＵＲＬ　https://www.takara.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）木村　睦
問合せ先責任者　（役職名）広報・IR部長　　（氏名）宇佐美　昌和　　ＴＥＬ　075-241-5124

半期報告書提出予定日　　2026年11月11日　　配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	210,870	13.0	13,112	68.4	12,764	72.8	11,682	105.1
2026年３月期中間期	186,556	5.7	7,786	△26.1	7,386	△33.9	5,695	△37.3

（注）包括利益 2027年３月期中間期　20,402百万円　（－%）　2026年３月期中間期　△3,504百万円　（－%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	60.87	－
2026年３月期中間期	29.40	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	518,871	268,147	49.4
2026年３月期	513,801	310,937	50.5

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　256,386百万円　2026年３月期　259,339百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	－	－	31.00	31.00
2027年３月期	－	－			
2027年３月期（予想）			－	34.00	34.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	430,000	9.0	21,400	25.3	19,800	17.4	17,400	48.8	90.77

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
連結業績予想の修正については、本日（2026年11月10日）公表いたしました「2027年３月期の連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	197,252,043株	2026年３月期	197,252,043株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	5,807,731株	2026年３月期	4,378,256株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	191,922,472株	2026年３月期中間期	193,679,407株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「1. 経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
中間連結損益計算書 …… 7
中間連結包括利益計算書 …… 8
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 10
（セグメント情報等の注記） …… 10
（重要な後発事象の注記） …… 11

○　第２四半期（中間期）決算短信補足資料

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間の業績は、売上高は宝酒造インターナショナルグループが大きく増加し、宝酒造やタカラバイオグループも増加しましたので210,870百万円（前年同期比13.0%増）となり、売上総利益は69,753百万円（同13.2%増）となりました。販売費及び一般管理費は、運送費や人件費などが増加しましたので56,640百万円（同5.2%増）となり、営業利益は13,112百万円（同68.4%増）となりました。経常利益は、支払利息が増加しましたが、受取配当金の増加や前年同期の為替差損が当期は為替差益となったことなどにより12,764百万円（同72.8%増）となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、特別利益に投資有価証券売却益を計上し、特別損失に公開買付関連費用やタカラバイオ株式会社で希望退職者の募集に伴う割増退職金などの事業構造改革費用を計上しましたが、法人税等では繰延税金資産の計上などがありましたので11,682百万円（同105.1%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[宝酒造]

当中間連結会計期間の売上高は、前年同期と比べて、焼酎は減少しましたが、清酒は“松竹梅「天」”などが増加したことにより増加いたしました。ソフトアルコール飲料は価格改定前の前倒し出荷の影響などもあり、“タカラ「焼酎ハイボール」”などが増加しましたので増加いたしました。調味料は、本みりんや料理清酒が増加しましたので増加いたしました。原料用アルコール等は減少いたしました。

以上の結果、宝酒造の売上高は59,669百万円（前年同期比3.3%増）となりました。売上原価は、原材料価格の上昇や為替の影響などもあり45,205百万円（同4.8%増）となり、売上総利益は14,464百万円（同1.2%減）となりました。販売費及び一般管理費は、広告宣伝費などが減少し11,825百万円（同2.8%減）となり、営業利益は2,638百万円（同7.1%増）となりました。

[宝酒造インターナショナルグループ]

当中間連結会計期間の売上高は、前年同期と比べて、ウイスキーが引き続き増加し、清酒やその他酒類も増加しましたので、海外酒類事業の売上高は増加いたしました。海外日本食材卸事業の売上高も和酒や水産品などの付加価値が高く差異化された商品のラインアップの拡充を進めたことや価格改定効果などもあり増加いたしました。

以上の結果、宝酒造インターナショナルグループの売上高は125,051百万円（前年同期比20.4%増）となりました。売上原価は、売上高の増加に伴い増加しましたが、米国での関税還付の影響などもあり82,574百万円（同18.5%増）となり、売上総利益は42,477百万円（同24.1%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人件費や運送費などが増加し32,997百万円（同19.7%増）となり、営業利益は9,479百万円（同42.4%増）となりました。

[タカラバイオグループ]

当中間連結会計期間の売上高は、前年同期と比べて、機器および受託は減少しましたが、試薬および遺伝子医療は増加いたしました。

以上の結果、タカラバイオグループの売上高は19,525百万円（前年同期比3.9%増）となりました。売上原価は、売上構成の変化の影響などにより9,222百万円（同12.0%増）となり、売上総利益は10,303百万円（同2.5%減）となりました。販売費及び一般管理費は、Takara Bio USA, Inc.の条件付対価（注）の公正価値減少に加え、各種費用の抑制等により10,896百万円（同15.6%減）となり、営業損失は593百万円（前年同期は営業損失2,342百万円）となりました。

（注）2025年１月に実施したCurio Bioscience, Inc.の株式取得において、取得対価の一部についてはSpatial製品の開発および売上の達成時に対価を支払う条件付対価契約を締結しており、達成可能性を見積もったうえで、その現在価値を負債に計上しております。当該負債については、定期的に達成可能性の見直しを行っており、見直しの結果生じた差額については販売費及び一般管理費で処理しております。

[その他]

当中間連結会計期間の売上高は、前年同期と比べて、貨物運送事業やワイン輸入販売などが増加し16,330百万円（前年同期比4.7%増）となりました。売上原価は13,437百万円（同4.1%増）となり、売上総利益は2,893百万円（同7.5%増）となりました。販売費及び一般管理費は、販売促進費などが増加し1,003百万円（同1.9%増）となり、営業利益は1,889百万円（同10.6%増）となりました。

品種別販売実績

セグメントの名称	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）	対前年 増減率
品種	金額（百万円）	金額（百万円）	（%）
焼酎	14,953	14,792	△1.1
清酒	3,730	3,871	3.8
ソフトアルコール飲料	22,000	24,156	9.8
その他酒類	2,105	2,100	△0.2
本みりん	4,668	5,002	7.2
その他調味料	4,529	4,650	2.7
原料用アルコール等	5,773	5,095	△11.7
宝酒造	57,760	59,669	3.3
海外酒類	13,164	15,222	15.6
海外日本食材卸	92,005	111,158	20.8
その他	553	10,502	－
グループ内連結消去	△1,834	△11,832	－
宝酒造インターナショナルグループ	103,889	125,051	20.4
試薬	14,272	15,137	6.1
機器	402	357	△11.2
受託	2,546	1,992	△21.7
遺伝子医療	1,573	2,036	29.4
タカラバイオグループ	18,794	19,525	3.9
報告セグメント計	180,444	204,246	13.2
その他	15,597	16,330	4.7
セグメント計	196,042	220,576	12.5
事業セグメントに配分していない収益及びセグメント間取引消去	△9,486	△9,706	－
合計	186,556	210,870	13.0

（注）販売金額には酒税を含んでおります。

（２）当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における流動資産は250,600百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,286百万円増加いたしました。これは主に商品及び製品が2,860百万円、流動資産のその他が4,885百万円それぞれ増加し、現金及び預金が7,705百万円減少したことによるものであります。固定資産は268,270百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,784百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が4,910百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、総資産は518,871百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,070百万円増加いたしました。

当中間連結会計期間末における流動負債は141,118百万円となり、前連結会計年度末に比べ59,080百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が49,348百万円、１年内償還予定の社債が5,000百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は109,606百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,219百万円減少いたしました。これは主に社債が流動負債への振替により5,000百万円、固定負債のその他が6,031百万円それぞれ減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は250,724百万円となり、前連結会計年度末に比べ47,860百万円増加いたしました。

当中間連結会計期間末における純資産合計は268,147百万円となり、前連結会計年度末に比べ42,790百万円減少いたしました。これは主にタカラバイオ株式会社を完全子会社化したことに伴う会計処理などにより資本剰余金が2,804百万円、利益剰余金が5,949百万円、非支配株主持分が39,837百万円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金が3,715百万円、為替換算調整勘定が5,029百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

この結果、自己資本比率は49.4%（前連結会計年度末は50.5%）となりました。

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益14,217百万円、減価償却費6,374百万円、投資有価証券売却益3,653百万円、棚卸資産の増加1,670百万円、その他の流動資産の増加3,301百万円、法人税等の支払額6,442百万円などにより5,225百万円の収入と、前年同期に比べ742百万円の収入減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形及び無形固定資産の取得による支出5,267百万円、投資有価証券の売却による収入4,075百万円などにより111百万円の支出と、前年同期に比べ18,241百万円の支出減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増加額49,209百万円、自己株式の取得による支出2,999百万円、配当金の支払額5,979百万円、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出52,573百万円などにより14,050百万円の支出と、前年同期に比べ7,255百万円の支出増加となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物に係る換算差額等を含めた当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より7,490百万円減少し61,634百万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、2026年５月13日に公表いたしました業績予想を修正しております。

当社グループの主要セグメントの売上高は、宝酒造では焼酎などが増加となり、宝酒造インターナショナルグループでは海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに引き続き好調に推移することにより、いずれも前回予想を上回る見通しです。一方、タカラバイオグループでは、世界的なライフサイエンス研究市場の低迷が継続する見込みであることや、日本における受託事業の新規案件獲得の未達などにより、前回予想を下回りますが、当社グループ全体の売上高は前回予想を上回る見通しです。

営業利益は、宝酒造インターナショナルグループでは売上高の増加ならびに相互関税還付金の計上等による売上総利益の増加により、前回予想を上回る見通しです。一方、宝酒造では販売費及び一般管理費の効率的な運用に努めるものの、容器包装品等のコストアップや為替影響により売上原価率が上昇し、売上総利益が減少することで前回予想を下回る見通しです。タカラバイオグループは、売上高は前回予想を下回りますが、相互関税還付金の計上やSpatial製品の開発および売上進捗に応じた対価の見直しによる費用減少を織り込み、前回予想並みで着地する見通しです。以上の結果、当社グループ全体の営業利益は前回予想を上回る見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益は、受託製造にかかる設備の減損損失や割増退職金など、タカラバイオにおける事業構造改革等に伴う特別損失が増加するものの、不動産の売却等による特別利益の増加が大きく寄与し、前回予想を上回る見通しです。

事業セグメントの予想値の詳細につきましては、本日公表の「2027年３月期　第２四半期（中間期） 決算短信補足資料」（PAGE10/15～15/15）をご参照ください。

（通期連結業績予想）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想（Ａ） (2026年５月13日公表)	420,000	18,800	17,000	11,900	61.70
今回修正予想（Ｂ）	430,000	21,400	19,800	17,400	90.77
増減額（Ｂ－Ａ）	10,000	2,600	2,800	5,500	－
増減率（%）	2.4	13.8	16.5	46.2	－
ご参考：前期実績 (2026年３月期)	394,316	17,076	16,861	11,696	60.52

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	73,191	65,485
受取手形及び売掛金	77,571	78,446
商品及び製品	82,664	85,525
仕掛品	2,077	2,370
原材料及び貯蔵品	6,788	6,935
その他	7,916	12,801
貸倒引当金	△895	△964
流動資産合計	249,314	250,600
固定資産		
有形固定資産	133,068	132,593
無形固定資産		
のれん	30,457	29,452
その他	29,911	30,269
無形固定資産合計	60,369	59,721
投資その他の資産		
投資有価証券	39,591	44,502
その他	31,518	31,514
貸倒引当金	△61	△61
投資その他の資産合計	71,049	75,955
固定資産合計	264,486	268,270
資産合計	513,801	518,871
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,779	27,670
短期借入金	6,414	55,763
１年内償還予定の社債	5,000	10,000
未払法人税等	4,004	3,756
引当金	3,633	6,399
その他	36,205	37,527
流動負債合計	82,037	141,118
固定負債		
社債	10,000	5,000
長期借入金	40,431	40,400
退職給付に係る負債	8,020	7,862
その他	62,374	56,342
固定負債合計	120,826	109,606
負債合計	202,863	250,724

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	2,804	－
利益剰余金	186,093	180,143
自己株式	△5,103	△8,103
株主資本合計	197,019	185,266
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,373	25,088
繰延ヘッジ損益	△2	△0
為替換算調整勘定	40,741	45,771
退職給付に係る調整累計額	206	260
その他の包括利益累計額合計	62,319	71,120
非支配株主持分	51,597	11,760
純資産合計	310,937	268,147
負債純資産合計	513,801	518,871

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	186,556	210,870
売上原価	124,913	141,116
売上総利益	61,642	69,753
販売費及び一般管理費	53,856	56,640
営業利益	7,786	13,112
営業外収益		
受取利息	343	359
受取配当金	532	617
その他	325	497
営業外収益合計	1,201	1,475
営業外費用		
支払利息	707	1,129
為替差損	511	－
その他	382	693
営業外費用合計	1,601	1,823
経常利益	7,386	12,764
特別利益		
投資有価証券売却益	4,421	3,653
その他	741	902
特別利益合計	5,162	4,556
特別損失		
減損損失	3,870	－
事業構造改革費用	－	2,090
公開買付関連費用	－	819
その他	99	193
特別損失合計	3,970	3,103
税金等調整前中間純利益	8,578	14,217
法人税、住民税及び事業税	5,185	5,906
法人税等調整額	105	△2,564
法人税等合計	5,291	3,341
中間純利益	3,287	10,875
非支配株主に帰属する中間純損失（△）	△2,407	△806
親会社株主に帰属する中間純利益	5,695	11,682

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	3,287	10,875
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,320	3,715
繰延ヘッジ損益	4	1
為替換算調整勘定	△8,071	5,722
退職給付に係る調整額	△44	87
その他の包括利益合計	△6,791	9,527
中間包括利益	△3,504	20,402
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,048	20,483
非支配株主に係る中間包括利益	△4,552	△80

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	8,578	14,217
減価償却費	5,950	6,374
減損損失	3,870	－
のれん償却額	1,559	1,601
引当金の増減額（△は減少）	△457	1,914
受取利息及び受取配当金	△875	△977
支払利息	707	1,129
固定資産除売却損益（△は益）	△618	△709
投資有価証券売却損益（△は益）	△4,419	△3,653
条件付対価に係る公正価値変動額（△は益）	－	△1,544
売上債権の増減額（△は増加）	184	33
棚卸資産の増減額（△は増加）	△2,226	△1,670
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△2,565	△3,301
仕入債務の増減額（△は減少）	238	442
その他の流動負債の増減額（△は減少）	△1,354	△1,092
条件付対価の決済による支出	－	△888
その他	1,032	△421
小計	9,605	11,453
利息及び配当金の受取額	904	1,109
利息の支払額	△470	△895
法人税等の支払額	△4,070	△6,442
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,968	5,225
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5,962	△3,201
定期預金の払戻による収入	6,959	3,550
有形及び無形固定資産の取得による支出	△18,791	△5,267
有形及び無形固定資産の売却による収入	1,358	880
投資有価証券の売却による収入	5,032	4,075
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△6,416	－
その他	△533	△148
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,352	△111
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△768	49,209
長期借入れによる収入	9,951	－
長期借入金の返済による支出	△5,394	△158
自己株式の取得による支出	△2,999	△2,999
配当金の支払額	△6,050	△5,979
リース債務の返済による支出	△633	△754
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	－	△52,573
条件付対価の決済による支出	－	△693
その他	△897	△98
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,794	△14,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,112	1,444
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△21,290	△7,490
現金及び現金同等物の期首残高	75,280	69,125
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	49	－
現金及び現金同等物の中間期末残高	54,039	61,634

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

子会社株式の追加取得

当社は、2026年４月13日及び６月16日付で、連結子会社であるタカラバイオ株式会社の普通株式を追加取得いたしました。この結果、当中間連結会計期間において、資本剰余金が14,442百万円減少しております。

また、当該取引などにより、資本剰余金の残高が負の値となったため、資本剰余金を零とし、当該負の値を利益剰余金から減額しております。

（セグメント情報等の注記）

Ⅰ　前中間連結会計期間（自2025年４月１日　至2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	57,080	103,711	18,794	179,587	6,968	186,556	－	186,556
セグメント間の内部売上高又は振替高	679	177	0	857	8,629	9,486	△9,486	－
計	57,760	103,889	18,794	180,444	15,597	196,042	△9,486	186,556
セグメント利益又は損失（△）	2,465	6,658	△2,342	6,781	1,708	8,489	△702	7,786

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などであります。

２．セグメント利益又は損失の調整額△702百万円は、セグメント間取引消去△75百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△626百万円であります。

３．セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、減損損失3,870百万円を計上しております。

（のれんの金額の重要な変動）

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、空間解析用研究試薬の開発・製造・販売を行うCurio Bioscience, Inc.の全株式を取得したことにより、のれんを計上しております。当該事象によるのれんの増加額は、当中間連結会計期間においては、6,337百万円であります。なお、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自2026年４月１日　至2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	59,023	124,837	19,524	203,385	7,484	210,870	－	210,870
セグメント間の内部売上高又は振替高	646	213	0	860	8,846	9,706	△9,706	－
計	59,669	125,051	19,525	204,246	16,330	220,576	△9,706	210,870
セグメント利益又は損失（△）	2,638	9,479	△593	11,524	1,889	13,414	△301	13,112

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などであります。

２．セグメント利益又は損失の調整額△301百万円は、セグメント間取引消去47百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△349百万円であります。

３．セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（重要な後発事象の注記）

連結子会社株式の譲渡

当社は、2026年10月５日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるタカラ物流システム株式会社（以下、「タカラ物流システム」という。）の株式の一部を譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

１．株式譲渡の理由

当社グループは、2026年５月13日に公表いたしました「宝グループ中期経営計画2030」の基本方針として、「長期Vision 2050の実現及び成長軌道への回復に向けた事業ポートフォリオ戦略」を掲げ、経営資源の選択と集中を迅速に進めることで、中長期的な企業価値の向上を目指しております。

タカラ物流システムは、輸送・倉庫事業を中心に様々な物流サービスを提供しており、全国的な物流ネットワークを有していることを強みとしております。当該ネットワークを活用しながら宝酒造株式会社（以下、「宝酒造」という。）に加え、外部顧客向け販売（以下、「外販」という。）の拡大も推進しており、売上高及び利益は堅調に推移しております。

しかしながら、中長期的には国内の人口動態やアルコール消費量の動向により、宝酒造の取扱物量の減少が見込まれることから、タカラ物流システムの物流機能を維持・強化していくためには、外販の継続的な拡大が重要な課題となっております。

また、近年の物流業界におけるドライバーや荷役作業員等の人材確保難に加え、これを背景とした物流関連法令の改正や人件費の上昇への対応が求められるなか、新たな設備投資や省人化投資、人財への投資等、さらなる経営資源の投入が必要な状況であります。

このような状況においては、「物流」をコア事業とする新たな株主のもとで、タカラ物流システムの持続的な成長及び従業員の雇用の維持・確保を図ることで、当社グループにおける経営資源の選択と集中を推進することが、グループ全体の企業価値向上に資するものと判断し、同社株式を譲渡することを決定いたしました。

２．譲渡する子会社の概要

(1) 名称	タカラ物流システム株式会社
(2) 事業内容	輸送事業、倉庫事業、流通加工事業、通販物流・販促品物流事業、損害保険事業、リース事業
(3) 取引内容	当社及び当社の連結子会社はタカラ物流システムとの間に、サービス提供等の取引関係があります。

３．譲渡する相手先の名称

株式会社中央倉庫

４．譲渡株式数、譲渡価額及び譲渡前後の所有株式の状況

譲渡前の所有株式数	1,000,000株（議決権所有割合：100%）
譲渡株式数	700,000株
譲渡価額	5,985百万円
譲渡後の所有株式数	300,000株（議決権所有割合：30%）

５．譲渡の日程

株式譲渡実行日	2027年４月１日（予定）

６．今後の見通し

本株式譲渡の実行により、2028年３月期の連結会計年度において、関係会社株式売却益3,625百万円（概算）を特別利益として計上する見込みであります。なお、最終的な株式譲渡価額は、株式譲渡契約に基づく価格調整等を経て決定されるため、当該売却益の計上額が変動する可能性があります。

また、譲渡実行後、タカラ物流システム及び同社の連結子会社であるティービー株式会社は当社の連結子会社から除外され、持分法適用関連会社となる予定であります。

重要な資産の譲渡

当社は、2026年９月15日開催の取締役会において、当社及び当社連結子会社である川東商事株式会社が保有する不動産を譲渡することを決議し、譲渡対象資産の大部分について2026年11月10日までに売買契約を締結いたしました。

１．譲渡の理由

当社グループは、「宝グループ中期経営計画2030」において、「長期Vision 2050の実現に向けた事業ポートフォリオ戦略」や、「ROIC重視の再徹底」等を基本方針とし、最終年度である2031年３月期のROIC目標を７%以上と掲げております。また、財務方針のひとつとして、「有利子負債の活用と政策保有株式・保有不動産売却を原資とした株主還元策により資本コストを低減する」と定めております。

その方針に基づき、資本効率の観点から保有意義を検証した結果、下記の保有不動産を譲渡することを決定いたしました。

２．譲渡資産の内容

所有者	物件数	帳簿価額	用途
当社	13物件	約17億円	賃貸用不動産
川東商事株式会社	５物件	約25億円	賃貸用不動産
合計	18物件	約42億円	

※譲渡価額は、譲渡先との取り決めにより開示を控えさせていただきます。

３．譲渡先の概要

譲渡先との取り決めにより開示を控えさせていただきます。なお、譲渡先は当社の関連当事者には該当せず、当社との間に記載すべき資本関係及び人的関係はありません。

４．譲渡の日程

物件引渡時期	2026年11月～12月（予定）

５．今後の見通し

当該不動産の譲渡に伴い、2027年３月期第３四半期連結会計期間において、固定資産売却益約88億円を特別利益として計上する見込みであります。なお、最終的な売却益は譲渡条件等により変動する可能性があります。